

## 地形・気候における地図活用

北海道小樽市立緑小学校 三和史朗

### 1 日本の気候の特色

5年生の社会科学習は、産業を中心に学習を進める。農業でも気候にはふれるが、国土全体の視野ではなかなかとりあげるのが難しい。

子どもたちは、日本の気候の特色を初めて概観することになる。

### 2 4つの地図をどう読ませるか

58ページの地図は上下二つずつの比較だけでなく、左右二つずつの比較も可能である。気温・降水で夏冬を比較して特徴をつかむ展開と、気温と降水をセットにして、夏と冬の比較をすることもできる。

今回は、まず日本の地形が南北にのびており、北と南で気温が大きく違うことをしっかりとらえさせようと考え、上二つの地図を比較させた。

まず「気温の様子からわかる、日本の気候の特徴はなんでしょう？」という発問をした。資料の読み取りにかぎらず、私が普段心がけているのは、「まずはノーヒントで」考えさせることである。

子どもたちは、地図を比較して特徴を文章で表現するという活動に戸惑いながらも、多くの考えをだしてくれた。それらを、発表・交流していく中で、少しずつ絞り込み、まとめていく。

教師の方から「南北で比較しなさい」とか「北海道と沖縄をよくみましょう」という補助発問も出すことはできるが、できることならそれを出さずに子どもなりの「資料を見る目」を大事にしていきたい。

この活動では、「年間を通じて北が寒く、南



「楽しく学ぶ小学生の地図帳」 p.58

が暖かい」という特徴を浮かびあがらせることができた。

次に、下の二つの地図を比較させる。しかし、上二つと比べて子どもたちは苦勞している。そこで地図を切り取り重ねるといったコンテンツを作成して提示した。すると「年間を通じて日本は降水量が多い」という特徴を浮かびあがらせることができた。

### 3 周辺データから新たな興味の喚起へ

このページは、地図の周辺にも多くのデータが載っており、そうした部分からも興味を高めることもできる。実際、授業後のふりかえりでも「どうして沖縄ではなく、山形で最高気温を記録したのか？」や「日本の特徴はわかったが外国とも比べてみたい」という疑問を書いてくる子がいた。授業から新たな興味が湧いてきて、関心意欲を高めていくような日常の取り組みにつなげていきたい（2007年8月16日最高気温40.9℃熊谷・多治見）。

コンテンツ動画データなどは下記サイトで。

<http://web.me.com/miwashiro/>